

活用方針・導入/活用までのステップ



VLP取組概要

■ VLP活用のねらい

- 適 対象児童・生徒に対して、VLPを通して、主体的な学習やコミュニケーションの場を提供する。

■ 対象児童・生徒

- 適 不登校児童・生徒のうち、教育支援センターやフリースクール等に通えていない児童・生徒

■ 運営時間等

- 適 運 営 日：月曜・水曜・金曜（祝日は除く）

- 適 利用時間：午後1時から午後4時まで

■ 活用方法

- 適 支援員や他の児童・生徒とチャット等によって、コミュニケーションを図る。

- 適 運営時間外でも、学習アプリで学習できる。

適



VLPの導入/活用までのステップ

- ① 学校から対象児童・生徒や保護者へVLPを紹介。
(対象児童・生徒や保護者から学校へVLPをやりたい等の相談があった場合もあり)
- ② 対象児童・生徒保護者から学校へ申請書を提出。
- ③ 学校から教育委員会事務局へ申請書を提出。
- ④ 教育委員会事務局から学校へ個人IDとパスワードを配布。
- ⑤ 学校から対象児童・生徒保護者へ個人IDとパスワードを配布。

活動・取組み内容

活動・取組み内容

【導入前】

- 不登校児童・生徒のうち、教育支援センターやフリースクール等に通えていない児童・生徒への支援が少ない状況であった。

【導入初期】

- 不登校児童・生徒のうち、教育支援センターやフリースクール等に通えていない児童・生徒への1つの支援策となった。
- 支援員が入室した児童・生徒に積極的に声をかけ、操作方法等の説明をした。
- 児童・生徒や保護者がVLPの掲示板に貼られた操作説明会へ参加し、操作方法を学んだ。

【運用期】

- 支援員が中心となり、参加している児童・生徒全員でコミュニケーションを促すゲーム等をして、やりとりを促した。
- 東京都主催のイベントがVLPの掲示板に貼られているので、児童・生徒が自主的に参加することができた。
- 学習アプリやプログラミング教育アプリは、VLP時間外でも取り組むことができるため、児童・生徒のペースで進めることができた。



VLPイメージ図



教員研修での周知

成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

成果/好影響

- ✓ 児童・生徒同士から、「また今度のVLPで会おう。」等の言葉があり、つながりが生まれた。
- ✓ 児童・生徒が支援員に悩みを相談できるようになった。
- ✓ 児童・生徒がVLP上でのコミュニケーションを促すゲームが楽しみで、毎回の開室を楽しみにしている。
- ✓ 児童・生徒がVLP上で学習アプリやプログラミング教育アプリにログインして、学習している。
- ✓ 児童・生徒がVLP閉室後にも、学習アプリで学習している。
- ✓ 教員がVLPに入って当該児童・生徒の様子を見ることや、ログを確認することで、児童・生徒理解につながった。

次年度以降の方針

- ✓ 対象者は変更せず、引き続き、教育支援センターやフリースクール等に通えていない児童・生徒への支援策の1つとする。
- ✓ 操作説明会等のイベントを開催し、活用を促していく。
- ✓ 教員対象の研修において、VLPの特徴等を周知し、必要な児童・生徒へ提示するよう促していく。

利用者の声



児童・生徒

- 支援員さんや他の学校の人たちと、ゲームをするのがおもしろかった。特に「絵しりとり」は、笑いが止まらなかった。
- 学習アプリは、動画を見て、その動画に関する問題が出てくるので、わかりやすかったです。1人で進めることができました。
- ボイスチャットもあるので、友達の声が聞けて良かったです。
- 進路について友達と話すことで、少し不安ではなくなった。



教職員や保護者等

- ひきこもりがちでしたが、VLPのおかげで人とコミュニケーションする場ができ、良かったです。
- 学習アプリを熱心にやっていました。
- 学校から電話をする際、「VLPや学習アプリはどう？」と話題のひとつになった。